

新 着 図 書

- 『闘いの庭 咲く女 -彼女がそこにいる理由-』
ジェーン・スー (2023) 文藝春秋
- 『「おふくろの味」幻想 誰が郷愁の味をつかったのか』
湯澤 規子 (2023) 光文社新書
- 『差別ってなんだろう? 2 性別や性のあり方にかかわ
らず』好井裕明 (2023) 新日本出版社
- 『楊花の歌』青波杏 (2023) 集英社
- 『自民党の女性認識-「イエ中心主義」の政治指向-』
安藤優子 (2022) 明石書店
- 『もしもトイレがなかったら』加藤篤 (2020) 少年写真
新聞社

～ふらっと ねやがわにて貸出可能です～

2022年度
男女共同参画についての
ワンフレーズ受賞作品

〈最優秀作品〉

★普通って何?あなたも私も多様なひとりで
大切な存在。 (坂口 妙子 さん)

〈優秀作品〉

★お互いの価値観を大切に築こう男女が平等
なパートナーシップ (小山 真澄 さん)

★この書類になんていっている? 性別記入欄。
(ねやがわ男女共同参画社会をめざす会 さん)

Doふらっと

寝屋川市立男女共同参画推進センターだよりDoふらっと第45号 令和5年9月20日発行

服飾のジェンダーレス

～垣根を越えたファッションについて～

ふらっと ねやがわ・相談事業のご案内

〈女性の相談員による心の悩み相談〉

女性の自立・生き方・人間関係などの心の悩み相談。
女性カウンセラーがサポートします。

【面接相談】※要予約

◎相談日時 月曜日：9:30～12:40
水曜日：13:30～16:40
第3木曜日：13:30～16:40

◎相談場所 ふらっと ねやがわ

予約・問い合わせ TEL(072)800-5789

【電話相談】※予約不要

相談日時 金曜日：13:00～17:00
(16:30までに電話して下さい。)

TEL(072)800-5584(相談専用)

〈女性の弁護士による法律相談〉

法律上の問題(DV、離婚、相続など)に悩む
女性の相談に女性弁護士がこたえます。

【面接相談】※要予約

相談日時 毎月第3火曜日：13:30～16:30
予約は、相談日の前日 午前10:00より先着4名
TEL(072)800-5790(予約専用)

〈男性の相談員による心の悩み相談〉

男性の生き方・人間関係・セクシャリティ(同性愛を
含む)などの相談。男性相談員による電話相談です。

【電話相談】※予約不要

相談日時 毎月第2水曜日：19:00～21:00
(20:30までに電話して下さい。)

TEL(072)800-5584(相談専用)

※ 秘密は守られます。 ※相談はすべて無料です。

寝屋川市立男女共同参画推進センター

「ふらっと ねやがわ」

〒572-0042 寝屋川市東大和町2番14号
(市立産業振興センター5階)

TEL : 072-800-5789

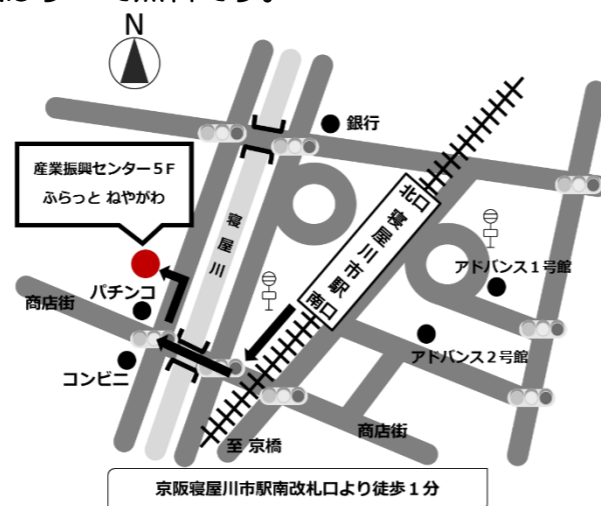
FAX : 072-800-5489

E-mail : flat@office.city.neyagawa.osaka.jp

開所時間：午前9時～午後9時

(日曜日・祝日は午後5時30分まで)

休館日：第2日曜日・年末年始



私たちは服飾を選ぶ時や他者の服飾を見る時、縛られなくてもいい価値観、無意識の偏見にとらわれているのではないのでしょうか。

日本では、明治時代の中頃に政府主導で西洋の服装が取り入れられ、男性服としては、制服、ビジネスウェア、フォーマルウェアなどとして積極的に取り入れられたとされています。女性服は和服が主流でしたが、第二次世界大戦を境に、その動きやすさから、日本女性の洋装化が一気に進みました(次のページで詳しく書いています)。そして、1950年代からは世界のファッション事情に日本女性が関心を抱くようになり、積極的に取り入れるようになっていきました。男性服に比べて女性服がめざましく大きな変化を遂げたということは、女性をめぐる社会環境が著しく変化したことの表れだと考えられます。

女性と服飾の関係は、生き方にも関係します。高度成長期には固定的性別役割分業意識が広く受け入れられるようになり、女性は結婚後、専業主婦になる人が多くいました。一方、女性の高等教育への進学や就労による社会参加なども増え、女性たちは様々なステージでファッションに興味を抱いてきました。しかし、家事・育児・介護を主体的に担ってきた女性たちは、自分が取り入れたいファッションを誰の目も性別役割も気にせず、着たいときに着たい服を自由に身にまとうことができただけでしょうか。

Doふらっと45号では、服飾の歴史的背景や制服を通して、服飾に形作られている性差によって求められる「らしさ」について考えてみます。そして、自分のアイデンティティを確認できるような、本当に心地良いファッションとは何かをとらえなおしてみます。その中でも今日進んできている服飾のジェンダーレスを考えることで、誰もが生きやすい社会を目指すために、服飾の多様性を受け入れることの大切さを考えてみましょう。

